

- ① 川が見通せる場所から、川の流れや、川原のレキ、砂防堤、川岸などを観察する。
 - ② 砂防堤が見られるが、これは流れが急で、川底がけずられることを防ぐ目的をもっており、上流でよく見られます。
 - ③ 川原のレキは大きく、1 mを越える巨レキがゴロゴロ川床に見られ、中流や、下流では見られない上流の特徴です。
 - ④ 川は大きくうねっています。その曲がっている外側の川岸は、流水でけずられて岩はだが見られます。
 - ⑤ レキの大部分は花崗岩であるが、ほかに硬砂岩や、緑色片岩も混っています。これらのレキは、阿武隈山地をつくっている主な岩石です。
- (3) 川原のレキを調べる。
- 川原に立って、平均的にレキがつもっている場所を選定する。
- ① 川原に1 m四方の方形を棒やロープでかこむ。
 - ② 方形わくの中に入っている10 cm以上の石を、10～20 cm, 20～30 cm, 30～40 cm, 40 cm以上に分け、その数を調べる。
 - ③ これらの石を、その形で、まるい石(角がとれまるみをおびている)、ややまるい石(まるいが、部分的に面が残っている)、角ばった石(割れ口のように角ばっている部分がある)の3つに分け、その数を調べる。
 - ④ 最後に色、模様、手ざわりなどの特徴で分ける。
- (4) 調べた結果を次のように表にまとめる。

レキの大きさ〔cm〕				レキの形			レキの種類		
10～20	20～30	30～40	40～	角	垂円	円	花崗岩	硬砂岩	
7	3	2	1	2	8	3	6	7	
54 %	23 %	15 %	8 %	15 %	62 %	23 %			

宇多川の上流

宇多川の下流(中村第1小学校のところを参照)の資料と比較し、川原のレキは、下流ほど小さく、まるい形のものが多くなることに気付かせる。